



特集『リウマチ膠原病内科』

20名超の
リウマチ
専門医
在籍

北摂地域屈指の充実体制
女性医師も多数

適切な
治療のための
専門外来

月曜日～金曜日
4つの
特長
外来設置

検査や
治療のための
入院へ

2800名程度が当科通院中
可能な限り患者さんの
ご都合に合わせて

肺疾患、母性、関節エコー等
他科との協働は大学病院ならではの

専門病棟にて患者さん1人に対して
医師がチーム制で診察

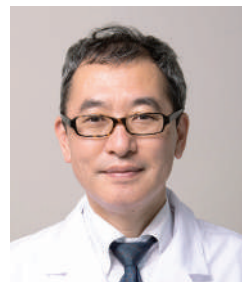
ご挨拶

日頃より多くの患者さんをご紹介いただき誠にありがとうございます。

私ども診療している膠原病は、全身諸臓器を傷害する**自己免疫性リウマチ性疾患**です。多様な病態に対応できるように体制を整えており、本稿では、「**リウマチ膠原病肺疾患外来**」、「**母性内科外来**」、「**リウマチ外来**」、「**関節エコー外来**」をご紹介します。

関節リウマチは、近年の診断や治療技術の進歩に伴い臨床的寛解を目指す疾患になり、早期診断と治療介入が求められています。「**リウマチ膠原病肺疾患外来**」は、膠原病において最も多く予後の不良な肺病変、特に間質性肺疾患や肺高血圧症を中心に診療しています。治療法が十分に確立されていない面もあり、個々の病態に合わせて新規治療薬や治験薬も積極的に取り入れています。「**母性内科外来**」は、妊娠・出産を考えている膠原病患者さんの診療にあたっています。本院産科・生殖医学科と連携して原疾患の治療を行いながら周産期管理を行っています。「**リウマチ外来**」、「**関節エコー外来**」では、診断・治療に難渋するような関節炎患者さんを広く受け入れ、診療所・病院における診療をサポートすることを重視しています。

私どもは、多様化する患者さんのニーズや期待に応えられる医療が提供できるよう努めてまいります。



リウマチ膠原病内科
科長

たけ うち とおる
武内 徹



診療科の専用ページは
コチラ

特集

リウマチ膠原病内科では、常に患者さん目線でより良い診療を心がけています

こたに たくや
小谷 卓矢

リウマチ膠原病内科 医長

日本内科学会認定総合内科専門医、
日本リウマチ学会認定リウマチ専門医
専門：膠原病学一般、膠原病肺



しょうだ たけし
庄田 武司

リウマチ膠原病内科 医長

日本内科学会認定総合内科専門医、日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医、日本呼吸器学会認定呼吸器専門医
専門：膠原病学一般、膠原病肺



リウマチ膠原病肺疾患外来

膠原病内科と呼吸器内科の知見を活かし、総合的かつ先進的な診療を可能に

本院のリウマチ膠原病肺疾患外来は、膠原病に関連する肺疾患に特化した全国でも稀有な専門外来です。呼吸器疾患と膠原病の診療はそれぞれ高度な専門性を要するため、通常の医療機関では対応が難しいことが多いですが、本院では呼吸器内科とリウマチ膠原病内科の専門医が連携し、両分野の知見を生かして診療にあたっています。**特に間質性肺疾患 (ILD)や肺高血圧症といった難治性疾患に対して、総合的かつ先進的な診療**を行います。

私たちは、爪郭部毛細血管顕微鏡をはじめとした最先端の検査機器を駆使し、膠原病とその肺病変の早期診断と病態の詳細な把握に努めています。加えて、膠原病性肺疾患に対する新規治療にも積極的に参画し、新しい治療法を提供する体制を整えているため、患者さんに適した治療を迅速に届けることが可能です。

治療においては、免疫修飾療法や抗線維化療法などを組み合わせ、間質性肺疾患の進行を食い止め、改善を目指しています。進行性の膠原病性間質性肺疾患に対しては、シクロスポリンのC2モニタリングや高トラフタクロリムス療法、さらにはJAK阻害剤併用療法など、**革新的な治療法**を導入し、生命予後の改善に努めています。

これらの集学的アプローチにより、他院では対応が難しい複雑な症例や、治療が困難な合併症を持つ患者さんにも適した治療を提供いたします。**膠原病に伴う肺病変は、早期診断と早期治療が予後改善の鍵**となります。

膠原病に関連する肺病変が疑われる患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当外来へのご紹介をお勧めいたします。



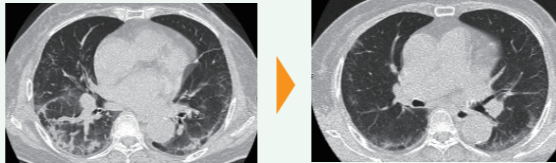
外来 小谷 ⇒ 月 PM・庄田 ⇒ 水 PM

リウマチ膠原病肺疾患外来での治療の一例

皮膚筋炎合併間質性肺疾患 (抗ARS抗体陽性) の治療例
ステロイドとカルシニューリン阻害剤の併用療法

治療前

治療後

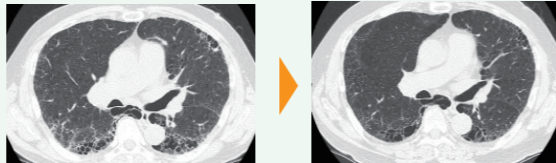


両肺のスリガラス陰影が軽減

関節リウマチ合併間質性肺疾患の治療例
免疫抑制療法と抗線維化薬の併用療法

治療前

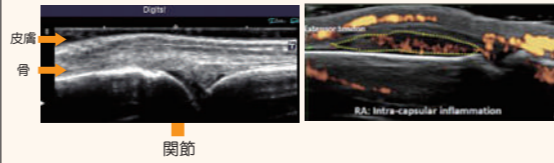
治療後



両肺のスリガラス陰影と小葉間隔壁肥厚が軽減

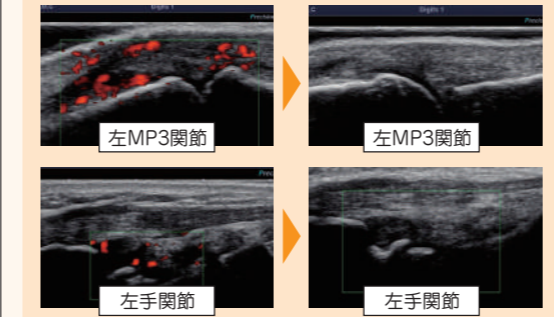
関節エコーを使用した治療の一例

左図:正常、右:関節リウマチ→黄色の点線で囲っている部分が炎症範囲。



治療前

治療後



滑膜肥厚は残存するものの、
薬物治療により滑膜炎は消失。

母性内科外来での診療

当外来では妊娠前からの情報提供・妊娠期間中の専門的な管理を行います

妊娠前

- プレコンセプションケア (妊娠前からの患者教育、カウンセリング)
産科と連携し、患者さんの婦人科側の状態も確認(小児科からの移行期医療の中での患者教育も)
- 妊娠に向けた疾患管理・治療計画 (薬剤の調整)

妊娠中

- 産婦人科と連携し 妊娠中の疾患管理

産後

- 授乳中の薬剤の調整
- 産後およそ1年程度は原疾患増悪のリスクがあるため経過観察
- 次子妊娠計画についての相談

母性内科外来

膠原病疾患女性の妊娠前(プレコンセプションケア)から産後のケアまで

当外来は日本母性内科学会診療プロバイダー資格を有する女性医師2名が、診療にあたっています。外来開設から11年を経て、本院産科・生殖医学科と十分な連携を取り、また他施設からの難治症例の受け入れ・若手医師の育成にも取り組んでおります。

通常の膠原病疾患管理に加えて、妊娠計画時～産後(授乳期)は専門的な管理を要する時期です。多くの膠原病は、妊娠前から十分な疾患管理・治療調整・患者教育を行うことで、母児の経過を改善できることが報告されています。また、妊娠中必要時は使用が許容される薬剤がありますが、リスクとベネフィットについての情報提供と十分な診療時間を確保しての説明(プレコンセプションケア)で患者さんの理解を得る必要があります。

加えて妊娠には腎機能・耐糖能・血圧・甲状腺機能などの問題も複雑に影響するため、妊娠前から包括的な内科管理を要します。しかしながら、妊娠は女性にとって繊細な話題であり、日常診療で医師・患者さんの双方が言及しづらい現状があります。専門外来での診療において患者さんが安心して妊娠、出産していただけるよう、努めて参ります。



外来 ⇒ 火

よし かわ あや か
吉川 紋佳

リウマチ膠原病内科

日本内科学会認定総合内科専門医、日本リウマチ学会認定リウマチ専門医
専門：膠原病学一般、関節リウマチ

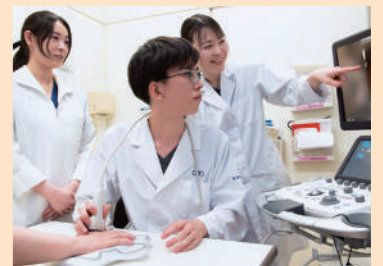


リウマチ外来、関節エコー外来

関節エコーを用いて関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、脊椎関節炎などの鑑別・病勢評価を行い、適した治療につなげる

膠原病疾患の症状は非常に多彩であり、その中の1つに「関節痛」があります。当科では関節痛に対して「**リウマチ医の聴診器**」と呼ばれる簡便で患者さんへの負担が少ない**関節エコー**を用いて、炎症性関節疾患の主病変である滑膜炎・付着部炎を評価し、鑑別診断・治療効果判定などの診療の一助としています。当科には日本リウマチ学会が認定する16名の関節エコーソノグラファーが在籍しており、関節エコー外来では年間約800件の検査を行っています。

また「リウマチ外来」は「関節痛」に対する精査のほか、主に関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、脊椎関節炎(乾癬性関節炎・強直性脊椎炎などの)**「炎症性関節炎」**を中心に薬物治療を行っております。数多くの抗リウマチ薬が使用出来る現在、早期の診断・治療介入が患者さんの関節予後に大きな影響を与えます。身体診察や血液検査、Xp検査などで診断や病勢評価が困難な患者さん、治療に難渋する患者さんがいらっしゃれば、ご紹介いただけますと幸いです。



リウマチ外来 ⇒ 月・木

※関節エコー外来をご希望の場合、まずは一般初診(月～金)へご紹介ください

母性内科外来の特色

産科・NICUとの連携により、不妊治療から分娩管理までの全過程のケアが可能

産婦人科・小児科(NICU)と連携し、本院でハイリスク妊娠のシームレスな管理を行います。また本院産科においても、妊娠と薬情報センター及びプレコンセプションケア外来を設けております。リエゾン看護師の協力も得て、内科・産科両面からのきめ細やかなケアを行います。

プレコンセプションケア(妊娠前の情報提供・薬剤相談)のみの診療も可能

- 妊娠可能年齢の妊娠希望(将来的な希望も含む)の膠原病患者さんの教育・評価
- 催奇形性のある薬剤を服用中に判明した膠原病患者さんの妊娠への対応
- 膠原病患者さんの妊娠管理についてのご説明

★更に産科でのプレコンセプションケアをご希望の場合は連携致します。

当科HP: 母性外来「患者さん向けのQ&A」



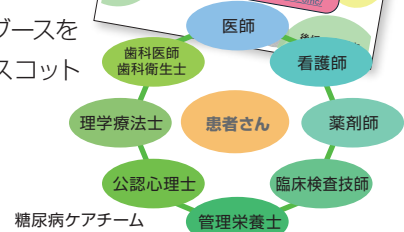
「糖尿病デー」イベントのご案内

皆様は**11月14日**が**世界糖尿病デー**ということをご存知でしょうか。この日はインスリンを発見したバンティング博士の誕生日であり、糖尿病の予防や治療継続の重要性について世界的に啓発活動が行われています。本院でも、毎年「**世界糖尿病デーin大阪医薬大**」として、医師、看護師、管理栄養士をはじめとした多職種で構成された糖尿病ケアチームが中心となり、院内イベントを行っています。今年のテーマは「**周りの人とできる糖尿病ケア**」です。これまでに皆様からいただいた疑問点や不安なことを、少しでも解決いただけるよう、私たちは取り組んでいきたいと思ひます。当日は本院7号館1階にイベントブースを設けポスターの展示、血糖測定体験や糖尿病に関する相談コーナー設置します。また高槻市のマスコットでもある『**はにたん**』も来場予定です。皆さんお誘いあわせの上、是非ともご参加くださいませ。

糖尿病ケアチームホームページは下記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご覧ください。
https://www.ompu.ac.jp/u-deps/in1/met/wdd_omc/



世界糖尿病デー in 大阪医薬大
 11月14日は世界糖尿病デーです。この日はインスリンを発見したバンティング博士の誕生日であり、糖尿病の予防や治療継続の重要性について啓発活動が行われています。本院でもイベントを開催しますので、ぜひお立ち寄りください！
日時 2024年 11月14日(木) 10:00~15:00
場所 当院7号館1階
 ポスター展示
 パフレット配布
 血糖測定体験
 糖尿病ケアチームによる相談窓口
 イベント専用ホームページ開設期間
 2024.11.1~11.30
 ホームページは、下記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご覧ください。
https://www.ompu.ac.jp/u-deps/in1/met/wdd_omc/



医療連携室からのお知らせ

「第9回紹介医療機関と大阪医科薬科大学病院との連携強化のつどい」開催報告

2024年9月21日(土)、日ごろ本院と連携いただいている病院・診療所さまを対象に「第9回紹介医療機関と大阪医科薬科大学病院との連携強化のつどい」を開催しました。

7月に開業した大阪ステーションホテルで初めての開催となりました。院内外から多くの関係者の方にご参加いただきました。理事長の植木よりご挨拶と「学校法人大阪医科薬科大学の成長」の題でお話をさせていただき、続いて、病院長の勝間田を座長に今年度就任した3科の診療科長の講演が行われ、皆さま熱心に耳を傾けてくださいました。引き続き実施された懇親会も、終始和やかな雰囲気と有意義な意見交換の場となり交流を深めました。お忙しい中ご出席いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。



2025年1月6日(月)より、医療連携室の営業時間を以下のとおりに変更いたします

変更前	変更後
平日 8:30~20:00	平日 8:30~19:00
土 8:30~12:40 (休診日除く)	土 8:30~12:40 (休診日除く)

Webからの初診予約申込みを10月より開始しました



メールマガジンを配信しています

メールアドレスの登録と本院のホームページ・広報についてアンケートのご協力をお願いします。



医療連携室ご利用のご案内

● 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日/8:30~20:00(2024年12月迄) 土曜日/8:30~12:00
 ※第2・第4土曜日は休診です。
 ※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。
 但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター 医療連携室
 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
 ●TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308
 ●TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)

FAX

送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください